

東播海岸の現状と社会的背景

海岸利用の状況や背後地の土地利用の特性がそれぞれ異なるため、4つの事業工区に分けて事業を進めています。

垂水工区

<海岸線沿いに多数の交通幹線>

神戸市垂水区付近は、六甲山地が海岸に迫り、わずかな平地にJR山陽本線・山陽電鉄・国道2号といった東西交通を結ぶ主要幹線が走るほか、淡路島に通じる明石海峡大橋が架かっています。海岸には、アジュール舞子があり、海水浴場や憩いの場として市民に親しまれています。

区間	神戸市垂水区境川から明石市との境界狩川河口まで
延長	約7.6km
擁する港湾・漁港	塩屋漁港・垂水漁港・舞子漁港
直轄延長	約6.2km

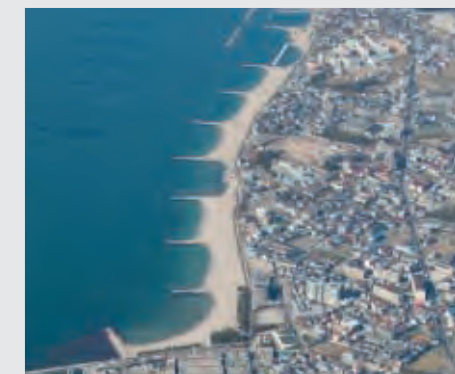


明石西部工区

<養浜に努めた結果、ウミガメが産卵>

明石の中心市街地から北西に広がる海岸線では、養浜によって砂浜が回復し、海水浴場として多くの人々に利用されるほか、ウミガメの上陸・産卵も確認されています。

区間	林崎漁港から江井ヶ島港まで
延長	約7.4km
擁する港湾・漁港	林崎漁港・松江漁港・藤江漁港・江井ヶ島港
直轄延長	約5.9km



明石東部工区

<背後は明石市の中心市街地>

明石東部工区には、JR明石駅周辺の市街地が広がっています。地方中核都市として古くから栄え、海産物が集まり流通する魚の棚(うおんたな)には瀬戸内の海の幸を求める人々で賑わっています。

区間	狩川河口から明石川河口右岸(林崎漁港区域)まで
延長	約4.9km
擁する港湾・漁港	明石港
直轄延長	約3.2km



播磨工区

<戦前から現在まで日本の重工業を支える>

東播海岸の最も西に位置し、埋め立て地における重工業が盛んです。戦前には、航空機を製造する軍事工場があった歴史があります。

区間	江井ヶ島から喜瀬川まで
延長	約6.1km
擁する港湾・漁港	魚住漁港・古宮漁港・東播磨港
直轄延長	約3.6km

